

平野橋

ひらのばし ● Hirano-bashi

〈東横堀川〉

平野橋は、大坂城築城からそう遅くない時期には架けられていたといわれる。江戸時代、平野橋の東側(内平野町)に「神明神社(しんめいじんじゃ)」(現在は大正区に遷座)、西側(淡路町)には「御霊神社(ごりょうじんじゃ)」があり、その門前町として賑わっていた。当時、この通りで定期的に開かれる夜店は、大阪の名物の一つになっていた。

橋や町名の由来は、御霊神社の祭神・早良親王(さわらしんのう)が京都の平野神社に祀られていたことから、この界隈が平野と呼ばれるようになったと考えられている。

明治31(1898)年に木橋から鉄橋に架け換えられたが、橋の規模は江戸時代とあまり変わっていない。

現在の橋は、第一次都市計画事業に基づいて、昭和10(1935)年に架け換えられたもの。橋の設計には建築家の武田五一(意匠)が加わった。アーチ部材が非常に小さく連続鋼逆ランガー桁といわれる、当時としては世界的にも珍しい技術が使われた。また欄干には扇の模様がシンプルに描かれ、デザイン的に洗練された印象で、ドイツの橋梁専門誌に取り上げられた。

